

前に引寄せて、右手で蓋をとつて右におき、懷紙をとり出して切首(小道具圖解参照)の面を拭ひ、船底に捨て、膝を徐ろに直してから、兩手を左右に展げ膝につき「眼力光らす」グツと上半身をのり出して首を見詰め「松王が」身體を起し「ためつ……」身體を左に傾けて肩を一杯に引上げて見やり「すがめつ……」そのまゝ右に傾けて見やり「窺ひ見て……」で正面から肩を引上げてジツと見守り間、人形遣の「ヤツ」といふ掛聲と共に「ムウコリヤ管秀才の首討つたは」と首から目を離さずにゐて「紛ひなし」と靜かに玄番を見上げて「相違なし」面を下げてシツカリと云ひ切る。源藏は正面へ首をまはして杳然となり戸浪は兩手をついてガツクリとなるが、源藏は上手の玄番、松王の方へ氣をかねて、改めて兩手をついて頭を下げる。「いふに悔り源藏夫婦」で玄番は立上り上手斜に向いてはねた袖を直すのを、松王は「首をその方へひねり肩を一杯に上げて引目をして氣を許さず、玄番が正面になつて坐つて「出かした」よく討つた」の言葉聞いて、初めて首桶の蓋をする。そして少し後へ退つて「いかさま隙取つてはお咎もいかゞ、拙者はこれよりお暇賜はり病氣保養致したし」と頭を下げる。玄番は一ツ、役目は済んだ、勝手次第にせよ」と首桶を抱へて屋體を下手へ出、船底へ降りて、捕手を従へて上手横幕へ入る。「玄番は館へ」で松王も立上り、屋體を出て、右に太刀を持つて船底へ降りる間に「駕に

ゆられて」となり、ツカ／＼と玄番の去つた上手へ進み一立ち……」トンと右足を出した形で止り、右の太刀を前に斜に持つて、玄番の後をジツと見送り、十分のウレヒで身體を震はせ、自然に頭を垂れるが、氣を換へて下手に向きかはりトンと東に立ち、足速やに鴉の内に姿を消す。(未完)

謹告

拜啓春寒料峭の副各位益々御清福の段奉賀上候陳者今般小生非才をも顧みず古き歴史を有する本誌に主宰する事と相成り候處大方各位より御懇篤なる御祝詞並に御鞭達の榮を賜り御芳情千萬難有只管感の念に堪へざると共に愈々其の責務の重大なるを痛感罷在次第に御座候

申上ぐる迄もなく本誌は大方各位の絶大なる御支援の下に淨瑠璃界の公器として新發足し現下の時局に順應して一意斯界の向上發展に寄與し聊か藝術奉公の誠を致し度き存念に有之候間何卒今後共に倍舊の御指導御後援に預り度奉懇願候

就ては一々拜芝の上御禮可申上筈の處甚だ乍不本意以誌上御厚禮申上度如斯御座候 敬具

大阪市東區道修町一丁目六

各位

昭和十八年二月

新良貴健 二